

自宅が人間ドック、暮らすだけで病気を予防、毎日の生活の中で健康を見守る『ヘルスケア・スマートタウン構想』

～同構想を提唱する金沢大学山越研究室を齊藤局長が訪問し、意見交換～

齊藤一雅北陸総合通信局長は、平成 24 年 9 月 13 日、『ヘルスケア・スマートタウン構想』を提唱する金沢大学理工研究域機械工学系 山越憲一教授と意見交換するため、金沢大学山越研究室を訪問しました。

『ヘルスケア・スマートタウン構想』は、家庭調度（ベッド、お風呂、トイレ）に内蔵された非侵襲・無拘束・無意識型生体計測システム（心電図、呼吸、血圧、姿勢等の生体データをモニタリング）と ICT ネットワークを融合させることにより、患者や家族に負担を与えることなく、地域の医療機関や訪問看護機関が患者の健康状態を見守ることのできる「健康で安心な地域づくり」をめざす構想です。

総務省では、平成 21 年度ユビキタスタウン構想推進事業、さらに、平成 22-23 年度「戦略的情報通信研究開発推進制度（SCOPE）」により、山越教授の同構想に繋がる研究開発、フィールド試験等を支援し、現在、その成果は、射水市民病院と宮崎県都城市の(社)八日会藤元早鈴病院などに導入されています。

山越教授から研究成果について説明を受けた後、「スマートホーム」と「スマートホスピタル」の中核技術である家庭調度内蔵型生体計測モニタリングシステム、理学療養を支援する身体装着型行動モニタリングシステムその他、開発中の光センサーを活用した血糖値測定システム等を視察しました。

山越教授は、「超高齢社会を迎え、治療型医療から予防型医療へのパラダイムシフトが必要。このシステムが普及すれば、患者や家族の負担を減らせるだけでなく、高齢者の孤独死や国民医療費を減らすことができる。9 月 2 日に、TBS テレビの『夢の扉+（プラス）』（※TBSHP URL <http://www.tbs.co.jp/yumetobi-plus/backnumber/20120902.html>) で紹介され、沢山の反響をいただいた。この取組に賛同し、研究開発や社会還元に力を貸してくれる方々が現れればと期待している。」と述べました。

これに対し、齊藤局長は、「日本中に導入されれば、何兆円もの国民医療費の抑制と社会保障・税負担の軽減に繋がる。日本の未来を救う画期的なアイデアだと思う。一人でも多くの賛同者、協力者が現れて、大きなムーブメントになるように応援したい。将来、同じ課題に直面する世界中の国々に『北陸モデル』として発信できるようになれば素晴らしい。」と協力を約束しました。

北陸総合通信局では、今後、山越教授が提唱する『ヘルスケア・スマートタウン構想』の広報・PR に取り組み、広く支援と協力を呼び掛けるなど、同構想を応援していくこととします。



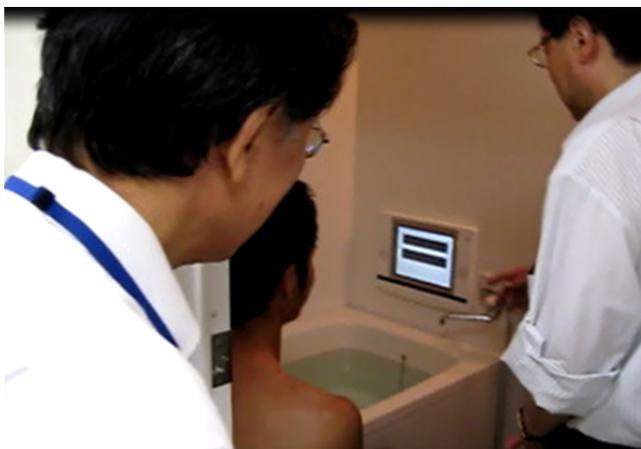
【山越研究室を視察】



山越教授から研究成果の説明を受ける



ベッドに内蔵された生体計測システム



お風呂に内蔵された生体計測システム



開発中のトイレの尿モニタリングセンサー

連絡先：北陸総合通信局情報通信部電気通信事業課（担当：綿谷、中野）

電話：076-233-4420

e-mail：hokuriku-jigyo_seisaku_atmark_soumu.go.jp